蟹 江 町 歴 史 民 俗 資 料 館

年　　報

第 37 冊

平成 29 年 3 月

蟹江町歴史民俗資料館

目　次

Ⅰ　歴史民俗資料館概要 …… 1
1　沿革 …… 1
2　施設概要 …… 1

Ⅱ　歴史民俗資料館事業 …… 2
1　展示 …… 2
（1）常設展示 …… 2
（2）特別展示 …… 3
（3）企画展示 …… 4
2　教育普及 …… 5
3　資料の収集・保管 …… 11
（1）収集資料の特色 …… 11
（2）収蔵資料の状況 …… 11
4　調査・研究 …… 13
5　情報提供 …… 13
6　利用状況 …… 13

Ⅲ　文化財保護事業 …… 15
1　文化財保護審議会 …… 15
2　文化財保護等事業費保護事業 …… 15
3　文化財公開事業 …… 16
4　文化財普及・啓発事業 …… 17

Ⅳ　資料編 …… 18

蟹江町歴史民俗資料館特別展

郷土ゆかりの文化人たち

佐藤高越　虎図　屏風

平成２７年１０月３１日(土) ～ １１月２９日 (日)

午前９時～午後５時　月曜休館　入館無料

場 所　**蟹江町歴史民俗資料館**　企画展示室

蟹江町城一丁目２１４番地　蟹江町産業文化会館内

TEL/FAX　０５６７－９５－３８１２

主 催　蟹江町教育委員会

ご　あ　い　さ　つ

蟹江町歴史民俗資料館では、平成６年度より、蟹江町にゆかりのある人物の作品等の収集事業を実施してまいりました。収集した資料の公開については、関連の特別展を定期的に行い、平成２２年度に開催した「館蔵品を見て学ぶ蟹江の文化」から５年が経過しました。

その間、当館所蔵の郷土の文化人の作品や資料も年々充実してまいりました。今回の展示では、新たに収集した未公開の収蔵品を中心に展示いたします。作品をとおして文化に触れ、豊かな気持ちになっていただければ幸いです。また、文化人同士の交流やつながりが新たな作品を生み、そこに郷土蟹江の地があることを感じていただきたいと思います。

最後に、当館の活動にご理解とご協力をいただき、作品や資料をご寄贈いただいた関係者の方々に対して、この場を借りて感謝申し上げます。

平成２７年１０月吉日

蟹江町歴史民俗資料館

飯田棲山(いいだせいざん)

書道家

大正１５年（１９２５）６月２８日　蟹江本町川西に生まれる。

本名年男。青年の頃から趣味として筆硯に親しみ、その後、国鉄に勤務するなかで生涯の師となる吉田桂秋氏に出会い、門下生となった。以後数々の作品を発表し、昭和３３年（１９５８）日展初入選、以後入選を繰り返し、日展会友となった。また、毎日文化センター等で後進の指導を行い、毎日書道展参与会員でもあった。

中国古典、法帖等の修練を重ね、特に行書体は明清朝の書風を主体とした優れた作品が多く残されている。

蟹江町の文化行政にも寄与し、社会教育委員、図書館運営協議会、文化財保護審議会委員、文化協会会長などを歴任、平成元年（１９８９）には町功労表彰をうけた。蟹江町への作品の寄付も多く、中央公民館等の会議室に掲示されている。また、蟹江町歴史民俗資料館年報第一冊から二十八冊までの表紙題字の筆をとっている。

平成２５年８月２６日逝去。２７年６月には蟹江中央公民館にて遺作展が開催された。

飯田棲山書　飲中八仙歌（杜甫）

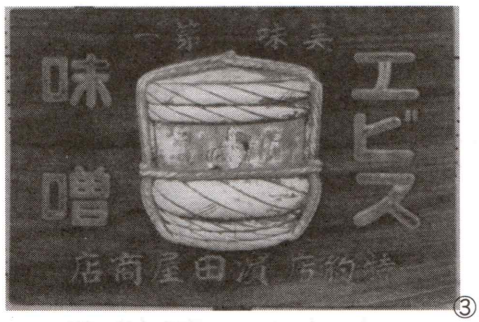
飯田棲山水墨画色紙

蟹江町歴史民俗資料館特別展

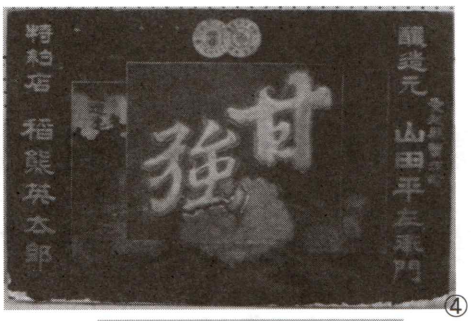
広告看板の世界

①

②



③



④

⑤

⑥

⑦

⑧

①③⑤⑦⑧：館蔵　②：飛島村総合社会教育センター蔵
④：甘強酒造㈱蔵　⑤：大治町教育委員会蔵

平成28年2月6日(土)　→　3月13日(日)

午前9時～午後5時　月曜休館　入館無料

場 所　蟹江町歴史民俗資料館　企画展示室
蟹江町城一丁目214番地　蟹江町産業文化会館内
TEL/FAX　0567－95－3812

主 催　蟹江町教育委員会

ごあいさつ

昔から、広告看板は、商工業者によりアイデアや趣向をこらして作られ、人の目を引くように設置されてきました。通りすがりに見るものでもあるため、一目でその店舗や商品を理解できるように工夫されたものも多くあります。そして、時代によってその素材やデザインが変化し、その時代のまちの風景の一部を形成してきました。

今回の特別展では、明治から昭和にかけての広告看板や関連資料を中心に展示しています。展示資料から、そのデザインの面白さを感じていただくとともに、時代の移り変わりや人々のくらしの歴史の一端を知っていただきたいと存じます。

最後に、今回の特別展開催にあたってご理解をいただき、ご協力いただいた関係者の方々に対して、この場を借りて厚く御礼申し上げますとともに深く感謝申し上げます。

平成２８年２月吉日

蟹江町歴史民俗資料館

薬看板

江戸時代以降、商工業が発達するなかで広告看板も発達し、より目立つようにと工夫が凝らされてきました。そのなかで、特に目をひいたのが薬の金看板です。江戸時代の終わり頃から看板に金が使われるようになり、明治になると看板全体に金を使ったものが登場し、これを店頭に飾ることが流行しました。金看板自体が高価なものであったため、これを掲げることが信頼につながるものになりました。この金看板は、製薬業者が作って認可販売店に配ったということで、これ以降、製造元が看板を販売店などに配るようになったのではないかと考えられます。

また、文字にカタカナを使ったり、カラフルな絵が描かれるようになったりしたのも、この時代の看板の特徴であり、文明開化の香りが感じられます。

9

10

11

12

13

14

15

16

9～12,15 館蔵　13,14,16 飛島村総合社会教育センター蔵